

## 要 約

報 告 番 号	① 乙 第	号	氏 名	飯 泉 桜
<b>主 論 文 題 名</b>  Survival impact of post-progression chemotherapy in advanced gastric cancer: systematic review and meta-analysis (進行胃癌における増悪後の化学療法が生存に与える影響：システマティックレビューとメタアナリシス)				
<b>( 内 容 の 要 旨 )</b>  進行胃癌における一次化学療法と二次化学療法での病勢進行後の化学療法（post-progression chemotherapy : post-Cx）と、三次治療が生存へ与える影響に関するシステマティックレビューとメタアナリシスを行った2005年から2015年の間に英語で公表された、または2013年から2015年の間に米国臨床腫瘍学会または欧州臨床腫瘍学会で発表された進行胃癌の全身化学療法の第三相試験の検索を行った。治療群ごとに、患者数、化学療法の種類、患者背景、post-Cxを受けた患者の割合（post-progression chemotherapy% : post-Cx%）、無増悪生存期間中央値（median progression-free survival : mPFS）、全生存期間中央値（median overall survival : mOS）を抽出した。病勢進行後生存期間中央値（median post-progression survival : mPPS）はmOSとmPFSの差として算出した。これらのパラメーターの報告のない試験は除外した。Post-Cx%と生存アウトカム（mOSとmPPS）の重みづけスピアマンの相関係数を算出した。化学療法の種類、患者背景により調整したPost-Cx%の生存アウトカムへの影響をメタ回帰分析により評価した。全体で25の第三相試験が抽出された。このうち、15試験（31治療群）が一次治療の試験、10試験（16治療群）が二次治療の試験であった。Post-Cx%とmOS/mPPS間の重みづけスピアマンの相関係数は一次治療では0.520/0.739、二次治療では0.767/0.823であった。化学療法の種類、患者の年齢、パフォーマンスステータスの調整を行ったメタ回帰分析では、post-Cx%が10%上昇するとmOSが一次治療で1.033か月、二次治療で0.344か月延長することが示された。  結論として、一次治療および二次治療後のpost-Cx%はmOS/mPPSと関連していることが分かり、既に生存期間を延長することが示されている二次治療に加え、三次治療も生存を改善することが示唆される。				